

「7番」でもエース

3点リードで迎えた延長十回裏、連続で四球を出し、1死満塁のピンチ。マウンドに立つ岩倉の主将、秋月健太投手(3年)は、ふうっと大きく息をついた。背番号は「7」だが、自分がエースだ」と言い聞かせ、最後は得意の直球で勝負。



投球練習中の秋月投手(左)と金城投手(神宮球場で)

岩倉
秋月 健太投手(3年)

併殺で仕留めた。昨秋の大会後、右肩に激痛が走り、腕が上がらなくなった。春の大会では全く投げられず、代わりに健闘したのが、6月からエースナンバー「1」を背負った金城直人投手(同)。チームを引っ張ってくれたのは金城投手だったが、「けががなければ……。正直、悔しかった」。負けず嫌いで



本格派の秋月投手と、マイペースで技巧派の金城投手。秋月投手は金城投手のことを「いいやつで優しい」と評する。試合中に投球練習をしていると、五回まで投げていた金城投手が、審判のストライクゾーンや、対戦相手が直球を狙っていることなどを教えてくれた。「一緒に戦っていい」という気持ちを感じた。

7番を言い渡されたとき、監督に「甲子園に行ってお前が1番をつければいい」と言われた。秋月投手が「自分がエースだと証明するために、勝ち続けたい」と言っていると、普段は穏やかな金城投手も「1番は、渡さない」。2人の暑い夏は続く。【斎藤有香】

東京東京

▽5回戦
帝大 京大 6-3 葛飾野
駒大 高4-2 世田谷
岩倉 倉6-3 錦城学園
小山 台4-2 東海大高輪台

8強



岩倉を4年ぶりのベスト8に導いた。

背番7秋月4K1失点締め 岩倉4年ぶり8強

背番7の元エースが最
後を締め、
岩倉を4年
ぶりのベスト
8に導いた。
「ホッとしました」。

秋月健太投手(3年)は「写真
はこう言いたくも、表情
が崩れない。3点差の10回
1死満塁、ここで速球勝負
に出た。遊ゴロ併殺。バッ
クに助けられた。「甘いのは
やられると思ったから力が
入って」。やっと笑みがこ
ぼれた。

3番手で登板し4イニングを1点に抑えた。被安打3、奪三振4。最速139の右腕は本来、1番を背負

「監督には甲子園に出たら、1番をやるといわれます。先発の方がいいですけど、勝つためには(リリーフも)やります」。目標とする甲子園まではあと3試合。主将も任せられる右腕は「自信はあります」と言い切った。【米谷輝昭】